



報 恩 寺 本 堂

(寺院紹介は6P)

空知南組

報

報

第 6 号

1989年 5月 1日  
発 行

新 年 度 に 田 心 じ

空知南組々長 杉田英明



昭和五十二年、即如門主が法統を継承せられたおり、三期十二年に至る宗門の長期展望計画が立てられ、殊に門徒推進員養成のための連続研修が始まりましたが、今年はその第三期目、最後の年に相当することを、まず自覚いたしたいと思います。

もとより、昭和三十六年宗祖七百年大遠忌を契機として、特に戦後日本の工業化の波による（昭和二十五年、朝鮮戦争以後の動態）人口の地滑りの移動現象、そして、その社会不安の渦中にあつて危機的深刻な反省から打ち出された「門信徒会運動」、四十六年以來の「同朋運動」が、近年、理念としては基本的に一本化せられて、昭和六十一年度よりは、宗門の「基幹運動」として位置づけられ推進せられていることは、御承知の通りであります。

只一点、省みるべき事柄として、隣山東本願寺においても、時を同じくして運動が展開せられて来たのでありますが、長年の緊張紛争の結果は、血脈相承を完全に分断し、光見氏の新門・僧籍剝奪をも先日決定する等、これら一連の運動の経緯そのものを共産主義工作の典型的成功例とみている識者もいることでありますので、他山の石というよりは真摯に対面しなければならぬ大きな問題であるうと、お互いに自覚を深めたいことであります。

今や人間の活動が気温上昇にも影響していると、氣象庁リポートも警鐘を鳴らしている時代であります。宗教界にあつては、かつての貧・病・争と云うよりも、地球の終末や地上天国の到来、超能力や心靈等異次元、あるいは精神の荒廃を憂い、より良き家庭や社会の実現を目指すもの等々が花ざかりといえます。

平成元年度に臨み、真宗者の立場で意を新たに、近くは四百年法要を目前に、共々に報謝行に尽力いたしたいと思います。

## 新年度 抱 負

### へ 門 徒 信 任 使 部 へ

平成元年と歴史の変動を目の当たりに体験し、思いは人それぞれに……。その中であつて、宗門は、全員聞法・全員伝道を掲げて基幹運動を展開し、幼年から熟年に至るまで念仏者としての活動が行われております。わが組においても、各ご住職・寺族の皆様が自ら聞法者となつて、熱心に基幹運動に取り組んでこられていることは、喜ばしいことでもあります。

門信徒部の総代会も早くから組織され、地道ながら研修を重ね、意識の向上に努めてまいりました。ただの名譽的総代ではなく、お念仏を心からいただける総代となるように、研修の持ち方にも一考が必要と思ひます。

仏教壮年会活動については昭和五十四年に連絡協議会が発足して以来、会長・役員を

中心に自主運営がなされてきており、総会をはじめ春・秋二回の研修、教区の研修にも参加し、活発であります。今年度は、連協が結成されて十年となり、十周年記念研修会を目標に動きつつあります。

しかし、各単位とも新会員の加入並びに運営等に苦慮しているようです。何事も継続することに大きな意義があり今後更に充実した壮年会活動を期待しています。

### へ 圭 月 少 年 年 部 へ

一年間の歩みをみますと、寺院子弟の研修会が、「親鸞聖人のご一生」というテーマで、日校については、「仏の子供ってなあに」というテーマで、青少年部全体の総合的な研修会は、「なんでもしゃべろうや」というテーマで、開催されました。特に総合的な研修会には、三十人程の小学生・高校生が参加し、それぞれの思いや悩みを話し合う意義深いものとなりました。各研修会を通して、子供達

の心にうるおいを与え、生きることの喜び、世の中から受けているご恩に感謝する心を養うことによつて、近年とみに増加しつつある青少年非行化防止にも大いに寄与し、明るい社会づくりにも貢献できることと感じます。

### へ 備 旧 旧 部 へ

二大法要にあたり、ご門主様のご消息のお心を体し、宗門の基幹運動を推進して、記念法座・各部研修・連研が開催されていますことは、誠に喜ばしいかぎりです。

今世紀も余すところ十余年冷静に時代を直視しますと、政治不信・生命尊厳性の喪失などが叫ばれています。

宗門においても、教学研究・開教・ビハーラ活動など、重点政策が審議されていますが、過疎地寺院対策の取り組みの遅れがあります。平成元年度、組内も新たな発展に向けて活動が始まりますが、二大法要のご勝縁を迎える喜びを通して、実りある僧侶研修

を推進したいと存じます。

### へ 尼 婦 人 部 へ

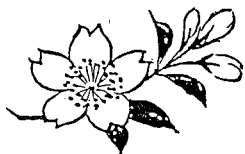
仏教婦人会活動は、春季総会・秋季研修会の年二回が、従来より続いてきた年間行事であります。近年、南・中・北のブロックが整い、ブロック内寺院を会所とする聞法場を設けて、今年に至っています。参加者も一七〇名以上で、多くの仏婦の方の協力を得て、活発に動いていると云えますが、それはあくまで「寺院・聞法」という形に止まっているとも反省させられます。今日まで寺院での聞法の場で貯えた心を、お寺を離れた立場で、仏教婦人として広く社会に奉仕する動きの中に伝えて行く事ができればと思ひますが、「云うは易く、行ふは難し」であります。様々に変化顕しい現代である故に、一層自身の足下を見失う事のないよう、お念仏のみ教えを聞き止め、他に及ぼす心となるよう念じ、共に努めたいと思ひます。

- 【1】天皇制についてどう感じますか。  
 ア、存続すべきである … 15  
 イ、廃止すべきである … 2  
 ウ、その他 … 7
- 【2】皇室に親しみを感ずますか。  
 ア、感じる … 15  
 イ、感じない … 3  
 ウ、興味なし … 6
- 【3】天皇の戦争責任について。  
 ア、ある … 5  
 イ、ない … 3  
 ウ、どちらとも言えない … 16
- 【4】元号制度をどう思いますか。  
 ア、賛成 … 15  
 イ、反対 … 3  
 ウ、わからない … 6
- ※反対と答えたの方のご意見は。  
 ア、西暦 … 2  
 イ、仏暦 … 1  
 ウ、その他 … 0
- 【5】新元号についてどう思いますか。  
 ア、良い … 15  
 イ、悪い … 1  
 ウ、その他 … 8
- 【6】今回の天喪の礼で、政教分離が  
 されていきましたか。  
 ア、いた … 5  
 イ、いない … 11  
 ウ、その他 … 8

- 【7】大喪の礼をテレビ等で見ました  
 か。  
 ア、見た … 18  
 イ、見ない … 6
- 【8】弔旗をたてましたか。  
 ア、たてた … 4  
 イ、たてない … 19  
 ウ、その他 … 1
- 【9】記帳をされましたか。  
 ア、した … 2  
 イ、しない … 22
- 【10】天皇前御の折、貴寺で法要等を  
 勤めましたか。  
 ア、勤めた … 2  
 イ、勤めない … 20  
 ウ、その他 … 2
- 【11】位牌を元号にしていますか。  
 ア、はい … 24  
 イ、いいえ … 0
- 【12】元号の書き間違いはありました  
 か。  
 ア、ある … 4  
 イ、ない … 20

◎組内34ヶ寺の各ご住職様にアンケートをお願いしましたところ、24名の方の解答をいただきました。ご協力ありがとうございました。(広報部)

折しも、昭和天皇崩御という出来事があり、世間では、時代の節目を迎えた感があります。今こそ、私たちの歩んで来た道をかえりみ、この時代に生きる宗祖の示されたみ教えを、お味わいたいものです。



▽元号は必要です。キリスト教ではないのですから西暦を使わなくともと思います。  
 ▼天皇には平和の象徴としての主体性を持つてもらいたい。世界は皆我が子という広い心でなければ平成とは言えない。  
 ▼一層、平生業成の念を新たにしたい。  
 ▼時の流れに昭和も平成もありません。その時その時の自分を厳しく見つめて行くことしかありません。  
 ▼「もう戦は二度とあってはならない」生きていく限り叫ぶと涙を流して話して下さった御門徒の声が耳に残っております。  
 ▼アンケートの理由に疑問を感じる。  
 ▼物は豊かだが精神的には貧困者が多い。  
 ▼昭和は私の人生の大事であり、激動の時代、青春の時代。平成、老化が進むこと。  
 ▼一つの節目を定めて、過去の事項を忘れがちになってしまっているのではないかと思う。  
 ▼私は昭和生まれですから感慨無量です。

檀家のご法事に行き、「ホーッ」というような御馳走をいただく事があります。この豊かさの代償として、ストレスの責め苦を受けなければならぬ時代の枠組みの中で、せめて一つでも、自分を慰める明日の光を与え、生きる力の支えとなるものを確保しておきたいと願っています。やがて行手に広がる一つの世界をみる事でしょう。

先年、先代住職の生家の寺（島根県）でご法要があり、型通り所謂石州流のお斎が出ました。豆腐（白衣）・シイ茸（黒衣）・油上げ（袈沙）・お壺（残り物）・人参（人が参る）、迎誓

# 如是我聞

広大寺住職 佐々木恵昭



ケロイド博士の「山アラシのジレンマ」密着すればトゲが刺さり、相手に怪我をさせる。離れば水臭く、他人の関係で暖かさがない。お互いに相手を尊重し、寄らず離れず相手を理解し、自分を活かす事を摸索する方向を何処に求めるか？

ぼちぼち古希を間近に控え、此れからが正念場を迎えました。此の正念場は、元来歌舞伎・浄瑠璃の世界で、演ずる役柄の真髓をみせるべき山場を指す言葉として使われています。仏教では、「自らの考え思い即ち、信念を乱す事なく、心を乱す事なく心を整える。」とありますので、難中至難のこと、如是我聞を大事に、永生至福の世界を乞い願ひ、老境を迎えつつある

和上の遺鉢を継ぎ、消してはならない歴史の灯であったのです。終わり良ければすべて良し、最後に出てきたものは、天下に轟く出雲そば、天そばでした。その原産地のルーツ、戸籍調べをしましたら、そば（中国）・小麦（米国）・エビ（タイ）・正油（米国の大豆）・割り箸（韓国）・唐がらし（台湾）。されば純国産は何だろう。水とネギ。国産色豊かな天婦羅そばでした。

そんな食事をとる若人は、健康的でデツカイ。中学校卒業式に参列の時、男生徒はテレクササ、女生徒は乙女の恥じらい。着実に一つのハードルを飛び越し、大人の世界に入った事を見て参りました。

人間誰しもが、心中深く、思いを致すべきであろう。事に於いて後悔せず、剣聖宮本武蔵の二天一流の奥義、成るべくして成る人生の岐路に直面した彼武蔵は、人智の及ばぬ巨大な壁の前に立ちすくむ。その闇黒の彼方に、一点の光明を求めて祈った事でしょう。点が線に移行、光明は、武蔵に降りそそいだことでしょう。

物・金・地位・力の支配下からは、何が生まれるか。

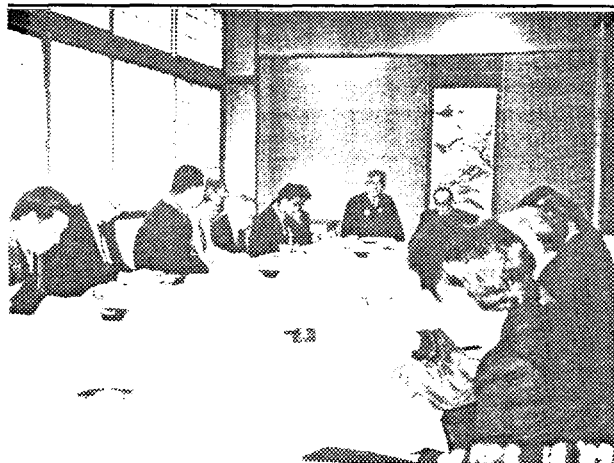
ただ、如是我聞をと願っています。

合掌

## ◇山定期組組会報告出口◇

四月十八日、岩見沢市サンプラザにおいて、平成元年度空知南組定期組会が開催されました（組内僧侶・門徒代表二十八名出席）。

杉田組長・佐々木議長挨拶の後、まず前年度業務報告及び決算報告、次に本年度の計画案及び予算案が提出され、審議を経て承認されました。特に本年度は、「朋（とも）に法を聞き、朋に法を語ろう」をテーマとして、各々の活動を行うこととなりました。



# インド仏跡巡拝団 に参加して

善照寺住職 林寺正憲



二年前より計画されていた空南会主催インド仏跡巡拝団一行十七名の一員として参加することができ、去る二月十四日、京都にて一泊、翌朝本山参拝、結団式には、吉井智見宗会議員を始め、柱松・田坂両総務の激励の言葉をいただいた。空路インドへ。

私にとっては、初めての海外。それがお釈迦様の国、インド。時折しも積尊入涅槃の二月十五日であった。

お釈迦様ご誕生の地ルンビ二園、そして勤苦六年の後三十五才にしてお覺りを開かれたブッダガヤ、初転法輪の地サルナート、八十才にて入涅槃のクシナガラと四大仏跡を巡拝し、大経をお説きになられた靈鷲山、觀經の起因となった韋提希夫人の王舍城址、そして阿弥陀經・孟蘭盆經などご生涯で一番多く説法をされた祇園精舎址に参拝。遙か

二千五百年前、積尊ご在世の往時に思いをはせながら、心の故郷に還ったような懐かしさを感じた。私一人だけではなかったと思う。

特に祇園精舎址では、関西大学の網干善教授ら四人の日本人が、キャンプ生活を送り、現地人と共に四年前から発掘調査を進めており、短時間ではあったが、同教授より仏跡発掘の意義についての話を聞く機会に恵まれたことは何よりであった。同教授は、奈良県の浄土宗の寺院の出身で、現在竜大でも教鞭をとっておられる関係上、私どもを浄土真宗の一行と知り、浄土教発祥の地ともいえる祇園精舎発掘についての自己の思いと、仏跡発掘に関心の薄い日本人仏教徒の姿勢について、熱情をこめて話されるのを聞いて、感銘し、猛省させられたことであった。

## 住職補任式を終了して

法王寺住職 松山宗生

私、去る三月三十日、第六十四回住職補任式を受式し御門主様より任命書を拝受させていただきました。その責任の重さに身の引き締まる思いでございます。

入寺して十七年、種々の事が思い起こされます。開教以来九十七年、仏祖の冥加と先人・住職・坊守・寺族、そして門信徒の方々の御苦勞が偲ばれ、心から感謝申し上げます。昨年二月に往生した第三世坊守(母)に育てられた事も多く、ご苦勞が特に偲ばれます。茶志内は、過疎化が進み、門信徒も各地に散り、寺門運営に厳しいものがありますが、門信徒と仲良く和をもって、笑いの中に一人でも多くの方が参詣して頂くよう努力いたさねばならないと思っております。

何卒、組内皆様のご教導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



☆「本山参拝・南紀めぐり」  
誓報寺・万行寺・静雲寺・  
光明寺の四ヶ寺総勢六〇名の  
参加にて、三月十日から十五  
日まで四泊五日の団参  
が実施されました。

★十一月十日、由仁本  
覚寺で庫裡新築落慶法  
要が営まれました。

☆三月十二日、ハワイ  
別院においてハワイ開  
教百周年慶讃法要が厳  
修され、わが組からは  
杉田英明組長が参拝さ  
れました。

★十月三十日、札幌広大寺が  
新寺建立されました。  
☆「御本典講読会」のご案内  
本年一月二十七日より青年

組の動き

〔組合・基推委〕

- ・三月三十一日、基幹運動推  
進常任委員会。
- ・四月十八日、定期組会。
- いづれもサンアラザにて。

年僧侶有志によって、御本典  
の講読会が開催されています  
（於正教寺）。会員募集中で  
すので、是非ご参加下さい。

- ・講師 北塔光昇氏
- ・会費 年会費二万円
- ・対象 五〇才迄の僧侶寺族
- ・日程 二年間二〇回
- ★法王寺住職松山宗生氏は、  
十一月一日、保護司に任命さ  
れました。

へお手紙

秋冷の候 貴職並びに組内の皆様には、益々御清祥の  
こと同慶に存じます。二日には空知南組の組報を御恵送  
賜り、誠に有難うございました。道内では一番ではない  
かと感銘いたしております。大変参考になります。益々  
貴組の発展を念じ、お札の言葉とさせていただきます。

十一月二日  
空知南組々長 杉田英明 様  
胆振組々長 奥田教宝 合掌

〔青少年部〕

- ・一月二十九日、青少年部合  
同研修会。於光明寺。
- ・三月三十一日、日校研修会。  
於隆王寺。
- 〔婦人部〕
- ・五月会研修会、十一月十七  
日於西本寺、三月十日於願  
王寺。講師藤堂西涯師。
- ・四月十九日、五月会総会。  
於岩見沢「味力」。
- 〔門信徒部〕
- ・十二月三日、総代会総会。  
於誓報寺。
- ・四月十二日、仏壯連協総会。  
於光明寺。

土寸陀院初和介

報 因心 土寸  
○開基：明治二十七年五月、  
栗沢村南六線東八番地戌号  
に説教所開設。

- 本堂建立：明治三十二年本  
堂及び付属建物を建立。
- 寺号公称：明治三十二年八  
月十七日、寺号公称許可。
- 住職：開基・辰田真成、  
二世・真定、三世・真正。
- 教化活動：明治四十年代か  
ら子供読経会を中心とした

日曜学校を開設。明治四十  
五年、九条武子様御来寺の  
際、仏教婦人会設立。昭和  
二十四年、勝如ご門主のお  
立ち寄りお泊まりを記念し  
て、翌年仏教青年会設立。  
現在、壮年会、ジュニア仏  
青の開設を準備中。

組報編集後記

◆第6号をお届けします。  
◆ワープロも年々機能が向上  
する中、次回はついに私の順  
番。今から練習しておかなけ  
れば…。それまでに機械に強  
いパートナー（嫁さん）が見  
つからないかなあ…。  
◆色々と想いがめぐる春のひ  
とときです。（S・T）

・所連集  
見務ご募  
意事でも  
ご長ま名  
組員報  
すは部組  
関は報組  
に等広す  
報望はさい  
組希たさい  
※ごま絡して

第6号  
組報所  
南行所  
知発町  
南我路  
組市光  
美唄常  
空知南  
組長事務